

「あなたは誰ですか？－社会的な姿と自覚的な姿－」

私たちは日々、現代社会に身を置く者として、何らかの形や立場で、他の誰かと関わりを持ちながら生活をしています。

その生活を営むうえで、人は日頃どのような自分自身を生きているのか確かめてみたいと思います。

例えば、学生生活を終え、いよいよ社会人として身を置くことになり、いわゆる新しい職場で、何らかの職業に就き、与えられた職務をこなし、給料をもらい、やがて社会的地位を得ながら出世をしていくという一般的な形があります。

このような職業的立場を「社会的な姿」といいまして、「あなたは誰ですか」とたずねられた時に、お医者さんならお医者さん、先生なら先生、会社員なら会社員の誰それと名乗り、またそれに答えながら、常に成立する関係の中にいる人のことです。

そこには、もちろん一社会人として生きていくための、知識や技術といった職業能力が求められる訳で、当然それらを身につけることは必要で重要なことですし、現代社会において求められていることでもあります。

しかし、生きてくという根本的なことの中では、それが全てではありません。「社会的な姿」としての自分自身は、むしろうわべの形であって、いつでもどこでも誰にでも名乗ることができる人のことではありません。

それに対して、私はこういう者ですと、いつでもどこでも誰に対しても名乗ることができる生き方をしている人のことを、「自覚的な姿」と呼び、どのような状況でも、どういう職業に就くことになっても、真実に生きようとする人のことです。

社会的に高い地位にいる人で、いくらみんなから慕われたり認められたりしても、一旦その立場を失うことになれば、もう「ただの人」ということになり、いくら元何々だったといっても、相手にされなくなってしまう。

ですから世間は、そういう「社会的な姿」だけを問題にして、その人本来の姿である「自覚的な姿」を見ようとはせず、いよいよ私たちを非人間化し、商品的な価値観でもって関係をつくりあげてしまっているのです。

私たちは、自分が一体誰なのかをはっきり自覚していくことで、真実に生きるということに目覚め、一日一日を空しく過ごすことなく、「いのち」の尊さに気づかされていくのです。

みなさんは「あなたは誰ですか」と聞かれたとき、どう答えますか？（939字）